

南十字星

豊川市立南部中学校
同窓会 会報
令和4年3月3日発行

「人」を大切に、人生を豊かに



同窓会会長 長田 阿騎弘
(第四十六回卒業生)

第七十五回卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。南部中学校で過ごした三年間はいかがでしたでしょうか。新しい友人との出会い、頑張った部活動や勉強など、さまざまな思い出が詰まっていると思います。

思い返してみれば、この三年の間に、世の中の情勢は大きく変わりました。新型コロナウイルスの影響により、休校や外出制限、合唱コンクール等イベントの中止など、これまであたりまえのように行われていたことができなくなることもありました。しかし、皆さんはそんな困難を乗り越えて、この春から新しい道に進むことになりました。これまでとはまた違った環境に戸惑うことや不安になることも

あるかもしれませんが、同時にこれまでにいろいろな人々との新しい出会いも待っているでしょう。どんな出会いも、ひとつとして無駄なものはありません。同級生でも先輩や後輩でも構いません。困っているときや悩みがあるときに相談できる、逆に相談にのってあげられるような仲間を見つけてください。学生時代の仲間というものは、大人になってからも続くかけがえのないものです。どうか皆さんには「人との繋がり」を大切にできる、そんな大人になっただけでいいと思います。

そしてもう一つ、これからいろいろなことにチャレンジしてください。今の時点で自分に何が向いているのかなんて、誰にも分らないはずですよ。皆さんには無限の可能性があります。失敗を恐れずにやりたいことや興味のあることを積極的に挑戦し、目標に向かって突き進むことで、その先に本当のやりたいことが見つかるかもしれません。

中国の故事に「人間万事塞翁が馬」という言葉があります。人生は、何が幸せを呼び、何が不幸をもたらすか予測しがたいものであるという意味です。この先の人生の中で、苦しいときや逆境に立たされることもあるでしょう。そのときはこの言葉を思い出して、最後まで諦めずに前向きにチャレンジしてください。そうすることで明るい未来が待っていることと思います。最後に、皆さんの将来が輝かしいものになるよう、大いに期待しています。

誓いの言葉

第七十五回卒業生 同窓会学年代表
三年三組 鈴木 櫻輔

私たち第七十五回卒業生は、この伝統ある南部中学校同窓会に入会できることを嬉しく思います。中学校で新しい仲間と出会い、ときにはケンカをすることもありましたが、共に過ごして、笑い合う中で、絆を深めてきました。これから先も共に過ごしていきけるかけがえのない仲間ができました。中学二年生以降の二年間は、新型コロナウイルスが猛威を奮い、日常生活も制限されることがたくさんありました。ときに戸惑い、ときにやりきれない感情になったこともありましたが、そんな中でも、私たちはできることに全力を注ぎ、日々奮闘してきました。このような中で、仲間たちと共に過ごした学校生活は、行事や授業、仲間とともに同じ目標に向かって努力を重ねた部活動はもとより、先生や仲間との普段の会話までもが、大切な思い出として、私たちの心の中にこれからはずっと残り続けることと思います。

これから私たちは一人一人、それぞれの未来へ向けてスタートを切ります。その途中にどんな困難が待っているとしても、このかけがえのない三年間を心の支えにして、自分自身の努力を力に、社会の荒波に揉まれながら頑張っていけます。南部中学校の校訓にもある「高潔・純真・勤勉」の心を忘れず、諸先輩方がつくり上げてきた伝統と精神を受け継ぎ社会へと進んでいきます。

私たちはこの南部中学校の卒業生であることに自覚と誇りをもち、これからは母校の発展と繁栄に力を注いでいくことを約束し、誓いの言葉といたします。

成人を迎えた同窓生から

第七十回卒業生 同窓会学年代表 松尾 直哉

令和四年一月九日、天候にも恵まれたこの日、私たちは成人式を迎え、大人としての第一歩を踏み出しました。その節目に今回、同窓会を開く運びとなりました。

新型コロナウイルス感染症拡大の心配もあり、同窓会自体が行えないという可能性も十分考えられましたが、旧三年二組の級長二人を始めとし、当時の学年の先生方や、同窓会役員など、多くの方の支えがあり、今回の同窓会を開くことが出来ました。また、各クラスへの連絡や当日の流れ、招待状の作成等、忙しい中でも喜んで協力してくれた仲間、本当に感謝しています。

当日は生徒だけでなく、当時の主任、担任、教科担当の先生方にもお越しいただきました。懐かしい旧友たちと久々に顔を合わせ、中学時代の思い出が蘇りました。学生として励む人。職に就き精を出す人。それぞれ進む道は違っても、共に過ごした仲間です。仲間、先生、そして二十年間支えてくれた両親、家族への感謝の気持ちを忘れず、夢や目標に向かってこれからは頑張ります。

これまで、本当にありがとうございました。



平成八年度に作成した「南部中学校五十年史」という冊子がたくさん見つかりました。数に限りはありますが、現在、1000冊ほどが保管されています。

せっかくですので、学校まで取りに来ることができれば、ぜひお配りしたいと思います。ご希望される方は、まず南部中学校同窓会事務局までご連絡いただき、残部の確認をいたうえて、南部中学校までお越しください。

また、各年次の同窓会等で配りたいなどのご希望がありましたら、まとめた数をお渡しすることもできます。同窓会事務局まで、ご相談ください。

役員会・総会の予(報告)

令和四年一月十三日に役員会・常任委員会が開かれ、令和三年度の事業報告と会計報告を行いました。その後、令和四年度の事業計画・予算案も審議されました。南部中学校同窓会の益々の発展に向け、ご意見をいただき、慎重審議がされました。

また本年度は、常任委員改選の年にあたるため、新任委員について提案がされました。常任委員として同窓会をお支えくださった山本委員長が退任され、新しく高橋希依子様が委員長をお引き受けくださりました。

役員会・常任委員会後一か月ほどたった二月二日に予定していた年次代表者会(総会)は、本年度も紙面開催となり、皆様の意見を反映させていただきました。

令和四年度役員・常任委員(敬称略)

- 役員 (任期: 令和五年三月三十一日まで)
- 会長 長田 阿騎弘 (四十六回生)
 - 副会長 伊藤 充洋 (四十七回生)
 - 副会長 篠原 かほる (三十一回生)
 - 書記 伊東 利典 (四十七回生)
 - 書記 西浦 友見 (四十二回生)
 - 会計 羽田野 普仁 (四十六回生)
 - 会計 外山 みち代 (三十三回生)

- 常任委員 (任期: 令和六年三月三十一日まで)
- 委員長 高橋希依子 (留任) 委員 山内 妙子 (留任)
 - 委員 鈴木 義章 (留任) 委員 高柳 淳子 (留任)
 - 委員 原 嘉孝 (留任) 委員 藤井 邦夫 (留任)
 - 委員 大木 健 (留任) 委員 袴田 敦也 (新任)

会計報告(令和2年度)

<収入の部>	
・繰越金	1,298,280円
・決算利子	4円
・新入会員会費	183,200円
合計	1,481,484円
<支出の部>	
・通信費	18,581円
・南十字星送料	8,852円
・南中へ寄贈(空気清浄機)	52,041円
・会議費	1,603円
・印刷用カートリッジ	48,257円
・紙代	2,000円
合計	131,334円

差引残高 1,350,150 円

同窓会会計 羽田野 普仁

コロナ禍で、全校集会などをビデオ放送により行えるように、本年度は、同窓会からビデオカメラ1台を学校に寄贈しました。



コロナ禍のもと、工夫して南中祭を開催しました

例年9月に開催をしている南中祭は、文化祭を割愛し、体育祭のみ10月に行いました。午前中に2学年、午後1学年が、2時間ずつ開催しました。



リレー種目では、どの学年も白熱のレース展開でした。懸命にクラスの仲間を応援する姿が印象的でした。

学級対抗で長縄集団跳びを行いました。3分間で跳んだ合計数で争われました。1回でも多く跳ぼうと、心をあわせました。



体育祭のトリは南部中伝統のマスゲームを行いました。コロナ禍で密になる大集団の演技ができない分、旗を使ったり、生徒が考えたダンスを踊ったり、行進や移動で隊形に変化をもたせたりと、工夫を凝らしました。



形を変えての資源回収

例年、夏休みに行っていた資源回収が、コロナ禍のため困難な状況であることを受け、本年度の資源回収は「懇談会」に合わせて行いました。懇談会にお越しになるときに持参していただいたのですが、多くのご家庭がご協力をくださいました。南部中学校区のご家庭が、学校をあたたく見守り、深くご理解いただき、ご協力くださっていることを感謝いたします。

地域の皆様の協力で、「創造・体験学習」を実施できました。

昨年度、コロナのために開催できなかった「創造・体験学習」を、本年度は行うことができました。インフルエンザとコロナウイルスの影響を考え、1月の開催から11月の開催へと変更をしました。そのため、これまでは1年生と2年生しか参加できなかったのですが、本年度は、全学年が参加しました。全23講座に分かれ、2時間の充実した楽しい時間を過ごしました。



令和3年度 部活動報告

令和3年度は感染症予防対策を実施しながら無観客で開催できました。練習試合をほとんど行うことができず、我慢の1年間となりましたが、限られた時間の中で、みんな真剣に練習に取り組みました。

運動部

<豊川市中学校総合体育大会>

【団体の部】

弓道 男子団体戦	優勝
剣道 女子団体戦	優勝
軟式野球	2位
陸上 男子4×100mR	
瀬尾 与那城 井上 中村	2位
卓球男子	3位
卓球女子	3位
バスケットボール女子	3位

【個人の部】

陸上	
男子1500m 鈴木陽斗	優勝
男子棒高跳 加藤富都	優勝
佐藤終也	2位
男子走幅跳 与那城秀叶	優勝
井上和真	2位
2年男子100m 瀬尾陸斗	2位
野球 ベストナイン	
初山愛武 平野隼亮 福島優駿	
卓球	
男子個人 松野日暖汰	3位
弓道	
男子個人 岡田悠	2位

<東三河中学校総合体育大会>

【団体の部】

陸上 女子低学年4×100mR	
橋本 太田 田中 服部	優勝

【個人の部】

陸上	
男子棒高跳び 加藤富都	優勝
佐藤終也	2位
男子走幅跳び 与那城秀叶	優勝
柔道	
男子 城所頼	3位
女子 甲地杏菜	3位
水泳	
200m個人M 竹内大輔	優勝

<愛知県中学校総合体育大会>

陸上

男子棒高跳び 加藤富都	8位
水泳	
400m個人M 竹内大輔	6位
200m個人M 竹内大輔	5位

<東海中学校体育大会>

水泳

200m個人M 竹内大輔	3位
--------------	----

<協会等主催の大会>

【団体の部】

東三河新人バスケットボール大会	
女子の部	優勝
豊川市協会会長杯新人バレーボール大会	
女子の部	3位

文化部

美術部

豊橋総合動植物公園春の写生大会	
豊橋市教育委員会賞	内藤海月
佳作	加藤万尋
佳作	宮崎由梨

吹奏楽部

中部日本吹奏楽コンクール	
東三河ブロック大会	銀賞
愛知県吹奏楽コンクール	
東三河地区大会	銀賞

個人の表彰

豊川少年補導委員会	善行生徒	遠藤圭太	
社会を明るくする運動	善行生徒	荒川天花	
豊川ライオンズクラブ	善行生徒	鈴木蓮香	
中学生・夢デザインコンテスト・インテリア部門	優秀賞	松井優佳	
山本学園主催	ファッション画コンテスト	優秀賞	榮口瑛菜
歯と口の健康に関する図画・ポスターコンクール	入賞	内藤海月	

学校の表彰

愛知県教育委員会	健康推進学校表彰
----------	----------

令和3年度 南中短信

最高の仲間と修学旅行(3年 山梨・静岡)

待ちに待った修学旅行は、静岡・山梨県へ行きました。1日目は、精進湖探索に行きました。愛知県にはない大自然とふれ合うことができました。長時間山道を歩いた先にあった、太陽に照らされ輝く湖の奥の富士山にみんな感動をしていました。2日目は、富士急ハイランドへ行きました。フジヤマという天国にいちばん近いジェットコースターに乗ったとき、79mの高さまで上がり、絶景を楽しむ時間も東の間。地獄のような時間を味わいました。それでも仲間と笑い合い、楽しかったと感じる時間でした。3日目はクラスによって行き先が異なりました。あるクラスは、大室山と伊豆アニマルキングダムへ行きました。この修学旅行でいちばん心に残った景色が大室山から見た景色ということも話しています。すべての計画が終わり、帰りのバスでは寂しく感じるほどでした。

振り返ってみると、たくさんの思い出ができました。ガイドさん、宿泊したホテルの仲居さん、たくさんサービスしてくれた屋台のお兄さん、共に笑いあった仲間たち。すべての人に感謝の心が芽生える修学旅行となりました。



オリンピックへの道 (3年 教育講演会)

本年度の3年生の講演会は、東京オリンピック3000m障害の選手である山口浩勢様にお越しいただきました。選手村での生活や、練習への取り組みや思い、中学3年の進路決定までのことなど貴重なお話をたくさん聴くことができました。ある生徒は、「山口選手のポジティブなところを見習って、どんな結果でもよいところはなにか、練習の成果は出ていないかという視点で分析できるようになりたい。」と考えるなど、新たな視点を持ちました。



いのちの教室 (1年 教育講演会)

本年度のいのちの集会は、愛知県動物保護管理センター東三河支所長の中村聡様をお招きし、ご講演をいただきました。飼いが育てきれずに捨てられた動物の管理や保護をすることを通して、いのちの重みや尊さを教えていただきました。

「ペットを飼う前によく考えるべきである。」「飼うならば、責任をもって育てたい。」などの感想をもち、いのちを見つめ直す時間となりました。



充実の野外教育活動(2年 豊田市旭高原)

コロナ禍のため、例年8月に県外で行っていた野外教育活動を、10月に県内の旭高原自然の家へ変更し行いました。自分自身で考えて行動できるよう『南中伝説～自然と仲間とレベルアップ～』のローガン掲げ、有志の運営スタッフ・広報スタッフ・キャンドルスタッフが、夏休み前から準備を重ねました。

当日は、体験活動やキャンドルサービス、ハイキング等を行いました。スタッフの活躍に加え、一人一人が時間をよく見て行動していたことが印象的です。様々な活動を通して、自主性や実行力を高めることができ、目標のとおり『自然と仲間とレベルアップ』した野外教育活動となりました。

